

ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成15年 **2003.3**

月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第77号

特別講演会として 「国立大学法人化の意味するもの」

TOP NEWS

—すべての大学が競争相手となる—

「国立大学法人法案」が2月末に閣議決定される中、2月27日午後、東北大学副総長の北村幸久氏を講師に招き、「国立大学法人化の意味するもの」と題した特別講演会が開催され、法人化準備委員会構成員と事務局を中心として約80名の教職員が出席した。

国大協法人化特別委員会の専門委員を務め、前東北大学事

務局長でもある北村氏は、戦後の大学改革の系譜を振り返り、国立大学法人の何が問題か、法人化の意味するもの、法人化と人事、法人化による大学の自主性・自律性の拡大等について講演し、出席者からの質問にも一つひとつ丁寧に回答した。

講演会終了後、人事労務等作業部会等の構成員等と懇談し、率直な意見交換が行われた。



講演する北村東北大学副総長



熱心に聞き入る出席者
＝事務局大会議室

巻頭言

特定非営利活動法人（NPO）方式による 実務実習教育用保険薬局の開設



薬学部長
辻 彰

平成16年度より国立大学が独立行政法人化されることに伴い、大学経営の新しい制度改革が検討されているが、教育研究の質的な充実に向けた改革がおろそかにされてはならないことである。

薬学部は、人類の健康増進、社会福祉の向上という社会的責務を担う医薬品専門家としての薬剤師及び研究者の養成を目的としている。薬剤師養成教育の一環として、本学の薬学部と大学院自然科学研究科博士前期課程医療薬学専攻ではそれぞれ4週間と1年間の病院・保険薬局実習を実施している。病院実務実習は、学部・大学院のグレードに応じて作成したシラバスに従い、主として医学部附属病院において行われており、極めて充実した教育体制が確立している。

一方、保険薬局実習は、石川県薬剤師会が推薦する地域保険薬局において実施され、我が国でも早い時期から地域連携教育体制が整備されているが、学部と大学院教育を質的に区別した実習を実施することは難しい状況にある。これを解決する一案は、教育を目的とする薬学部附属保険薬局を設置してシラバスに従った実務実習を実施し、その教育成果をもって保険薬局にフィードバックし、地域医療のレベルアップに貢献することにある。国内薬系大学46校中、すでに岐阜薬科大学、大阪薬科大学と共立薬科大学が附属薬局を開設して、実務実習教育を行っているが、国立大学にあつては現行の学校設置法では附属薬

局を設置することができない。

そこで、特定非営利活動法人（NPO）が経営する「教育保険薬局」を活用するアイデアが浮上した。その布石として、筆者が会長を務める石川県薬事審議会は、医薬分業推進要項（平成13年8月制定）において、「大学又はその関連する民間非営利組織等が教育を目的とする薬局を開設し、薬学生・新人薬剤師の育成事業を推進することが望ましい。また、その薬局の施設を活用して、患者に対し医薬分業の普及啓蒙事業を推進することも望ましい」の項目を盛り込んだ。幸い、石川県薬剤師会と関連する機関からの理解と協力が得られたので、平成14年1月にNPO設立総会を開催し、NPO事務局を開設すると共に、本学教授・関係者らが理事に就任し、同年9月にNPO「健康 環境 教育の会」（理事長：佐々木琢磨がん研究所教授）の設立が認可された。本学部同窓会と石川県薬剤師会からの寄付のほか民間からの出費と銀行からの借入金によって、2月3日に金沢大学の校章として親しまれている名称を冠した「アカンサス薬局」の開局にこぎつけた。薬学部教授が薬局長に任命され、4月から3名のベテラン薬剤師の指導による本学部学生・院生を対象とした保険薬局実習を開始するが、全国薬学生、新人薬剤師の実務実習の場として貢献する。

また、優れた新薬の開発を促進すると共に患者の健康を守るという薬学部出身者の新しい職域としての「臨床試験コーディネーター（CRC）」を養成することも本NPOの事業にかかげ、「北陸臨床試験支援センター」を設立し、金沢大学臨床試験管理センターを中心とした地域治験ネットワークを構築する。

上記のように、大学機能を活用するNPOを設立することによって、金沢大学の活性化と産学官民連携を推進していきたいと思っている。

目次

特別講演会として 国立大学法人化の意味するもの …	1	角間地区交通規制で成果 ……………	8
巻頭言 特定非営利活動法人（NPO）方式による 実務実習教育用保険薬局の開設 ……………	2	外国人留学生スキー講習会・交流行事を実施 ……………	9
北陸先端科学技術大学院大学と 第1回研究交流会 …	3	留学生書道展 ……………	9
入学者選抜試験 ……………	3	附属小学校 弦楽合奏部定期演奏会 ～スイートドリームスコンサート～ ……………	9
宇宙開発事業団とのビジネスマッチングセミナー ……	3	本学へのお客さま ……………	10
第24回がん研究所セミナー ……………	4	東アジアの各大学教官が来学 ……………	10
講演会「医療事故について」 ……………	4	ミニ講演会 「アトピー性皮膚炎の正しい理解と治療」 ……………	11
医学系研究科FD実施 ……………	4	エル・ネット オープンカレッジ ……………	11
海外の高等教育を調査 ……………	5	やさしい英会話教室 ……………	11
平成15年4月設置 3センター新設 学際科学実験センター、総合メディア基盤センター、 大学教育開発・支援センター ……………	6	冬の哺乳動物の生活痕観察会 角間の里山自然学校 ……	12
地域貢献推進事業で 「はくもわたしも科学の豆博士」を実施 ……………	8	加賀タウンミーティング開催 ……………	12
		編集後記 ……………	12

トピックス

北陸先端科学技術大学院大学と 第1回研究交流会

2月4日、本学と北陸先端科学技術大学院大学が大学院レベルで教育、研究を連携する研究交流会が、工学部秀峯会館で開かれた。

これまでは、同じ県内にいながら個人的レベルでの研究交流であったが、交流会を通じ、融合型の新しい研究へと発展させる足がかりとするために、今後、年2回程度交互に場所を替え、開催し、研究の活性化を図る計画である。

この日は、両大学の教官8名の研究発表があり、教官と大学院生約100名が異分野の研究内容を熱心に聴き入った。

研究成果を発表する鈴木正樹理学部教授



あいさつする林学長
列席者 左から、尾田十八
大学院自然科学研究科長、
吉原経太郎北陸先端科学技術
大学院大学副学長



入学者選抜試験

平成15年度金沢大学入学者選抜試験が、2月25日（前期日程）及び3月12日（後期日程）の日程で実施された。



試験室に向かう受験者
=2月25日、総合教育棟



試験開始を待つ受験者
=2月25日、文・法・経済学部A101講義室

2月17日、共同研究センター協力会、石川県産業創出支援機構及び宇宙開発事業団産業連携協力室の共催により、標記セミナーが開催され、県内企業等から約40名が参加した。

セミナーは、同事業団と金沢大学及び県内中小企業の新たな連携スタートさせることを目的に開催し、本学の共同研究支援体制の説明の後、同事業団石塚淳彦産業連携室長から「宇宙開発事業団の紹介」、(財)日本宇宙フォーラム生田宏二郎シニアコーディネーターから「宇宙開発に必要な技術」と題して講演があった。

宇宙開発事業団との
ビジネスマッチングセミナー

講演する(財)日本宇宙フォーラム生田シニアコーディネーター
=インキュベーション施設セミナー室（1階）

セミナー等

第24回がん研究所セミナー

2月26日、27日に医学部記念館で、第24回がん研究所セミナーが行われた。本セミナーでは、年1回がん研究所の全教官が一堂に会して、各自の研究の進展を発表する。教官同志の共同研究など所内の交流に役立つとともに、教官任期制の導入部局として医学部、薬学部の教官に評価委員として出席願いの評価を仰ぐ、外部評価委員会も兼ね、大変有意義な研究会であった。



講評する外部評価委員
=2月26日、医学部記念館



研究状況を発表するがん研究所教官
=2月26日、医学部記念館



講演する両角医学教育課課長補佐
=臨床第一講義室

講演会「医療事故について」

医学部附属病院は2月24日、医療事故防止に関する研修会の一環として、両角晶仁文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐（併：大学病院指導室救急医療専門官）及び熊田真紀子大学病院指導室専門職員を講師に招き、「医療事故について・大学病院における安全管理の変遷」をテーマとして、病院長はじめ、教職員等約280名が出席して講演会を開催した。

熊田専門職員から「バーチャル文部科学省ツアー」と題して、文部科学省の執務風景等の案内があった後、両角課長補佐から、大学病院における安全管理に関して、「第1世代のリスクマネジメント」、「第2世代のリスクマネジメントを考える」と題して、いくつかの実例をあげながら講演が行われた。

医学系研究科FD実施

1月25日、26日の両日、「適切な医学教育を推進するために、教育への関心を深め、望ましいカリキュラムを開発する能力を修得する」ことを目的に、第5回目の医学教育ワークショップを実施した。

この研修は、教育に携わる教員全員が受講することを目指し、平成11年度から実施しているもので、参加者は望ましい学習・本学医学教育に求められるもの・学習目標・学習方針（立案）・教育評



価（立案）等の研修テーマについてグループ討議、全体討議等で活発に討議を行った。



医療面接と客観的臨床能力試験（模擬OSCE）に取り組む参加者

全体討議を行う参加者

海外の高等教育を調査

—— オーストラリア, ニュージーランド ——

井上英夫及び横山壽一両学長補佐は、2月8日から19日までオーストラリア及びニュージーランドの大学を訪問し、両国の大学経営について調査を行った。これは、教育改善推進事業として大学改革推進室が企画したもので、大学改革推進室事務室の土田専門職員が同行した。

担当者から説明を受ける両学長補佐
=オーストラリア国立大学



学生から教育環境等を取
材する両学長補佐
=オークランド大学



キャンパス間を結ぶ
シャトルバス
=グリフィス大学



本部棟の裏庭で=ニューイングランド大学

—— フランス, イギリス ——



400年の歴史と風格のあるケンブリッジ大学キングスカレッジ校舎

松坂大学改革推進室事務室長（総務課長）、上口同室長補佐（総務課専門員）及び村田同事務室員（研究協力課助成係長）は、教育改善推進事業として、1月17日から1月28日まで、フランス及びイギリスの大学及び高等教育機関等を訪問し、管理運営及び大学職員の人的資源マネジメントに関する調査を行った。



大学担当者から説明を受ける松坂大学改革推進室事務室長等
=ストラズブール ルイ・パスツール大学



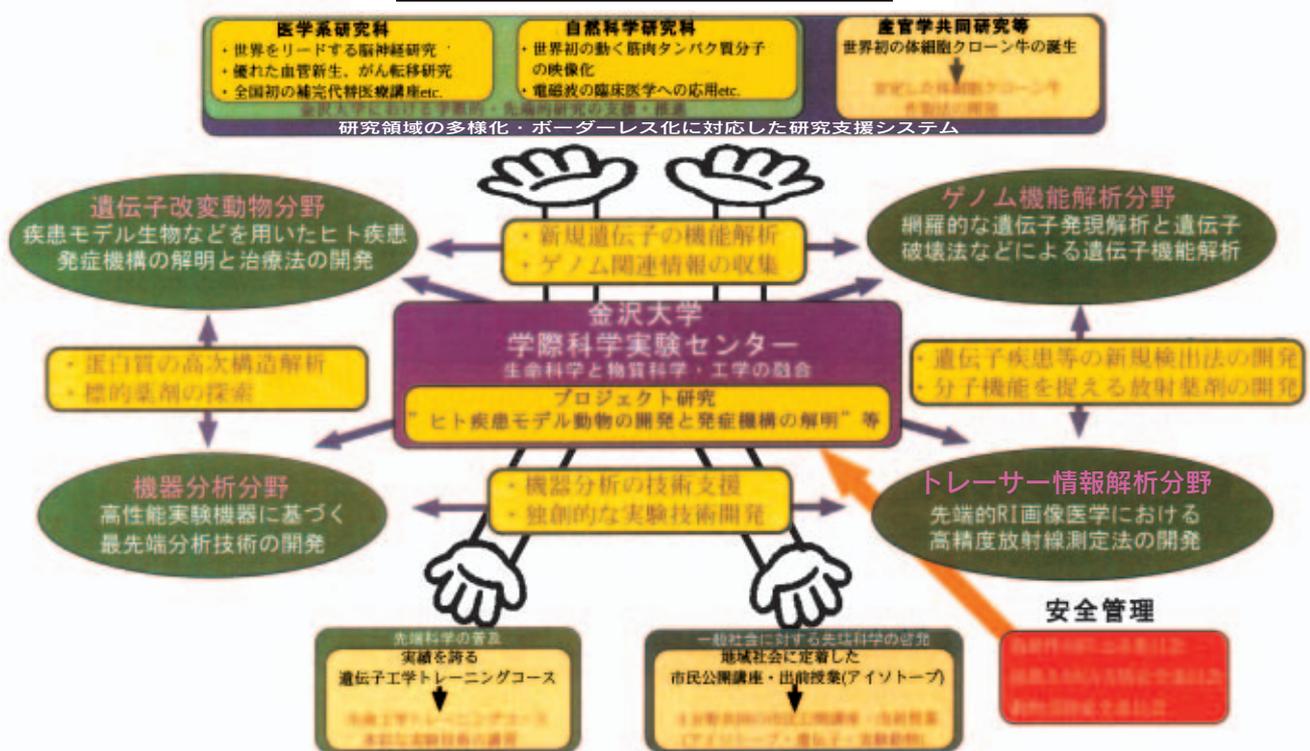
フランス国民教育省での調査

新 学内共同教育研究施設等

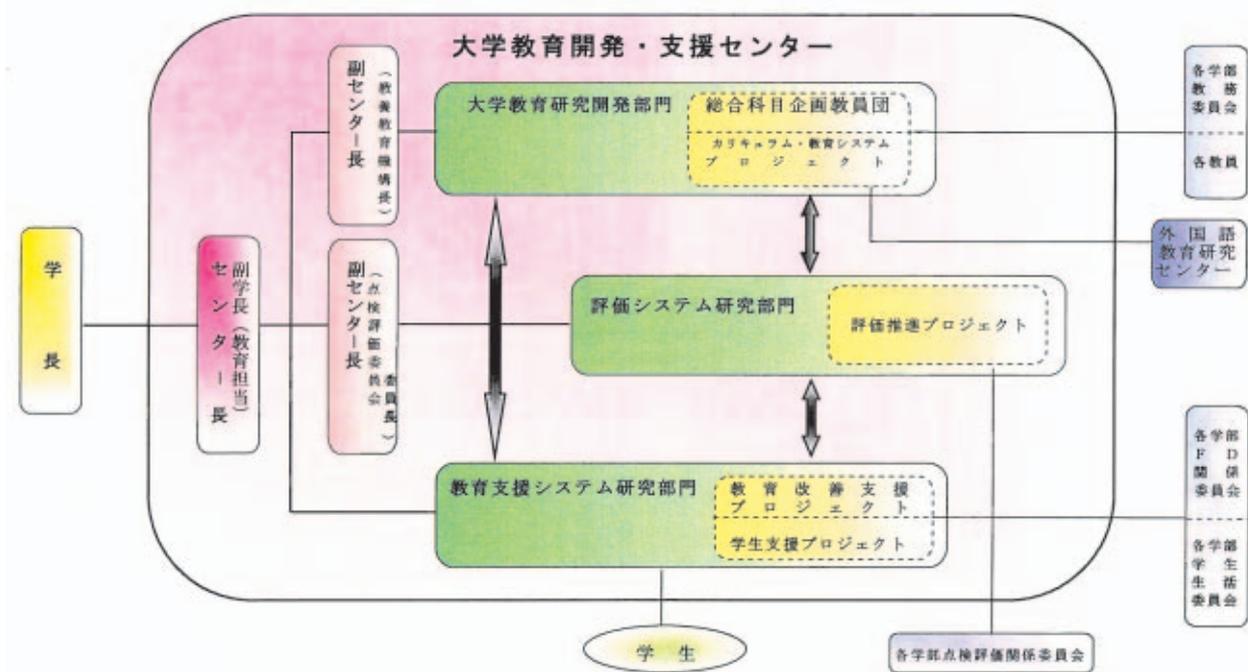
平成15年4月設置 3センター新設

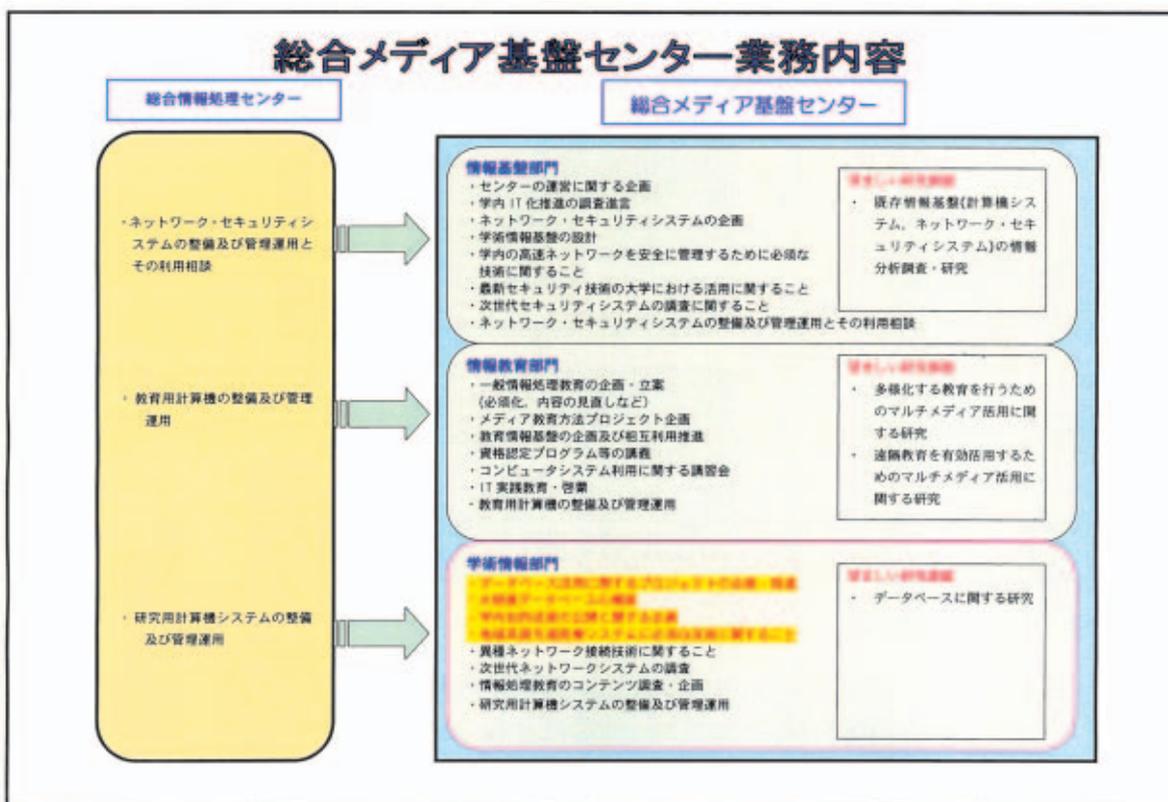
学際科学実験センター，総合メディア基盤センター，大学教育開発・支援センター

学際科学実験センターの改組



大学教育開発・支援センターの機能推進システム図





地域貢献推進事業で 「ぼくもわたしも科学の豆博士」を実施



2月8日、16日の両日、大学教育開放センターは、地域貢献推進事業の一環として、「ぼくもわたしも科学の豆博士」を実施した。初日は、「光（虹やスペクトル）に関する実験」、第2日は、「真空についての実験」を行った。指導者は、本学理学部を卒業し、現在、石川県立津幡高校に勤務する福岡辰彦先生が指導された。

光（虹やスペクトル）の実験

両日とも20名を超える小学生の参加があり、「虹には、主虹と副虹の二つあることがわかった」、「真空や空気のすごさがわかった」、「来年も是非参加したい」などの感想が寄せられた。



真空についての実験

角間地区交通規制で成果

角間地区交通対策実務委員会を中心に、昨年10月から、角間地区における駐車違反の取締りを重点的に実施している。

その結果、環状道路付近及び体育館・附属図書館前のサービスエリアにおける駐車違反は、各部局の御協力もあり、激減し、成果を上げています。



車両に警告ポール

外国人留学生スキー講習会・交流行事を実施

2月14日、15日、外国人留学生スキー講習会・交流行事を尾口村で実施した。14日は、東二口歴史民俗資料館で、人形浄瑠璃の鑑賞を行った。

留学生たちは、独特のセリフまわしや人形の動き、人形・舞台の造りなどに興味深く見入った。

また、15日は、白山一里野温泉スキー場でスキー講習会を行った。



人形の動きに興味深く見入る留学生



晴天にも恵まれ、指導員からスキーの滑り方を教わる留学生

留学生書道展

2月19日～21日、留学生の課外活動の一環として開かれている書道講座の成果の発表の場として、大学会館の集会室で書道展が開かれた。

ほとんどの学生が初めて筆を持ったのですが、半年後の今は、このようにしっかりとした書作品を発表できるようになった。



作品を完成させて喜ぶ留学生たち



附属小学校 弦楽合奏部定期演奏会 ～スイートドリームスコンサート～

2月21日、附属小学校ランチルームにおいて、毎年恒例となった弦楽合奏部第9回定期演奏会が催された。

今年度の部員は、4・5・6年の48名で発足し、学校内外の活動に参加してきた。本演奏会は、今年度の活動のしめくりとなるもので、部員一同心を一つに朝練習や放課後練習の成果を在校生や保護者に披露した。



演奏する部員たち

学長室等

本学へのお客さま



カレル大学（チェコ）
ウラディミール・セコフスキー教授と大学関係者

カレル大学セコフスキー教授が、鈴木治彦理学部教授との共同研究の打合せのため来学し、2月14日に学長と会談した。

会談では、カレル大学の概要を紹介するとともに、昨夏ブラハを襲った大洪水による大学の被害に関する金沢大学教職員有志からの義援金に対して感謝の意を述べた。

東アジアの各大学教官が来学

2月17日から2月27日にかけて、東アジアの各大学から教官が来学し、本学との研究者交流及び学生交流の拡充、拠点大学方式やコンソーシアム方式による交流について意見交換を行うとともにそれぞれの分野での研究討論を行った。



文学部
中国北京大学 沈 陽 教授



教育学部

左から2人目、台湾師範大学 李 志文 副教授
左から3人目、韓国ソウル大学 羅 永一 副教授
左から4人目、韓国漢陽大学 李 鎮洙 教授
右から2人目、台湾師範大学 蔡 禎雄 教授

工学部

後列左、韓国韓端大学 金 鍾浩 副教授
後列中央、韓国仁川大学 李 熙寛 助教授
前列左、韓国翰林情報産業大学 金 泰植 副教授
前列右、韓国忠北科学大学 李 周祥 副教授



金沢大学サテライト・プラザ等

ミニ講演会 「アトピー性皮膚炎の 正しい理解と治療」

2月7日、ミニ講演会が開催され、竹原和彦大学院医学系研究科教授が「アトピー性皮膚炎の正しい理解と治療」と題して、講演し、約40名が聴講した。

また、「テレビ会議システム利用金沢大学遠隔講演」により内灘町文化会館及び寺井町立図書館に配信し、27名が受講した。

講演する竹原教授
＝金沢大学サテライト・プラザ



エル・ネット オープンカレッジ

恵土孝吉教育学部教授は、本学として、初めて「エル・ネット高度化推進事業」の委嘱を受け、「剣道の初心者指導のノウハウ」と題して、独自収録を行った。

このほど全国2,000局以上の公民館等の受信局に放映され、受講者からの質問・問合せもあり、全国の学習者に対する学習機会の提供となった。



恵土教授のエル・ネット放映による剣道指導
＝2月22日

やさしい英会話教室

外国語教育研究センターでは、地域貢献推進事業の一環として、金沢大学サテライト・プラザで、2月8日から3月8日の土曜日に、講師1人に受講生6名までのクラスを開いた。3名のネイティブ・スピーカーを講師とし、小学校教諭を対象に初歩的な英会話・教室英語・教室運営に役立つスキルなどの指導を行った。

期間中、延べ100名以上の突然英語を教える立場になった先生が、小学生に楽しく英語に親しませるための指導法を学んだ。



冬の哺乳動物の生活痕観察会 角間の里山自然学校

2月8日、富山市ファミリーパークの村井仁志氏を講師に迎えて、冬の哺乳動物の生活痕観察会を行い、参加者29名とにぎやかな観察会になった。

里山ゾーンの遊歩道を歩き、ノウサギの糞と足跡、ホンドリツネの糞と足跡、ホンダタヌキの足跡、ムササビの糞と食痕などを観察した。これら哺乳動物を目撃あるいは捕獲することはたいへん難しく、生活痕によって生息を推定するのが現実的である。ちなみに、Ⅱ期工事前の調査ではムササビの生息は推定されていない。今回、初めて角間での生息が推定された。



村井講師による足跡についての解説を聞く参加者

2月7日、「地域が大学に望むこと」をテーマに、市民や行政関係者の約100名が参加して加賀タウンミーティングを開催した。

鹿野勝彦文学部長が「大学は地域から何を学び何を伝えるのか」、地域からは「大学に望むこと」と題して、まちづくりや産学連携、教育の各方面からそれぞれ話題提供し、参加者全員で意見交換が行われ、「加賀地区に金沢大学のサテライトを設置してほしい」、「地域の特長を生かした共同研究を」、「学生と地域の交流を」、「地域の求める人材育成を」等、本学への要望や意見が多く出された。

加賀タウンミーティング開催



意見交換会
＝セミナーハウスあいりす（加賀市）

編 集 後 記

今月号も本学の基本理念・目標である 1) 課題探求能力を持った国際的教養人の育成 2) 世界へ向けて情報発信する研究志向型大学 3) 主体的に地域と交流するアカデミア 4) 世界と交流し連携する大学 5) 社会的要請に柔軟に対応できる、人間性を重視した高度先進医療の推進 6) 本学の特色にふさわしい能力・資質をもった意欲的学生の発掘の6つの目標を中心とした記事の掲載を心掛けました。

広報誌の発行に当たっては、本学の目標と関係する投稿記事の多少によって、編集に一喜一憂し、苦労しますが、本学の基本理念・目標の存在が、自然に学風を表現できることを改めて強く感じています。

（総務部企画広報室広報係長 橘 幹宏）

平成15年3月21日発行
（原則として毎月1回第3週に発行）

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」〈愛称“KUPIS”（キューピーズ）〉
（アドレス＝<http://www.kanazawa-u.ac.jp>）でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール（E-mail）＝general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。